

令和6年度 全国・学力学習状況調査結果について

<教科に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析>

国語 全国平均正答率を「上回っている」

【書くこと】

○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができた児童の割合が高い。

【読むこと】

○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉え、人物像を具体的に想像することができた児童の割合が高い。

【話すこと・聞くこと】

●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題が見られた。

(2) 和田さんは、村木さんの発言⑥を受けて、発言⑦のように話しました。和田さんの話し方のくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 相手が興味をもっていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。
- 2 相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。
- 3 相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。
- 4 相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。

二 和田さんは、「和田さんのメモ」を生かして、村木さんとオンラインで交流しました。次の「オンライン交流の様子の一部」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましよう。

【オンライン交流の様子の一部】

深緑小学校 村木さん 海風小学校 和田さん

② はじめまして。深緑小学校の村木です。今日は、とても楽しみにしていました。

① はじめまして。海風小学校の和田です。よろしくお願ひします。

③ メールありがとうございました。図書委員会のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのしょうかいで、読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んだことがない分野の本を読みました。

④ せっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのかが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。

⑤ 説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしてくれます。私もクイズに参加しました。今まで読んだことがない分野の本を読むことができました。

⑥ よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦ そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出题されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。

【漢字の書き取り】

●熟語(音読み)の書き取りに課題が見られた。(同音の漢字が多い)
「競技」→(誤答)「競」が書けなかった児童が多い

【その他】

○漢字の書き取りを除き、無解答率が全国平均と比べて低い。粘り強く課題に取り組むことができている。

算数**全国平均正答率と「ほぼ同程度」****【数と計算】**

●問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことに課題が見られた。

(1) ゆうさんは、折り紙を72枚持っています。

ゆうさんが持っている折り紙は、こはるさんが持っている折り紙より28枚少ないです。

こはるさんが持っている折り紙の枚数を求める式を、下のアからエまでのの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

ア $72 + 28$

イ $72 - 28$

ウ 72×28

エ $72 \div 28$

「…28枚少ない」という表現で短絡的に「ひき算」と判断してしまう児童が多い。

【図形】

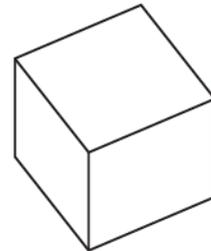
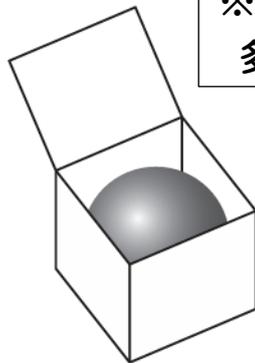
●球の直径の長さ^と立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題が見られた。

(3) 直径22cmの球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。

※正答は $22 \times 22 \times 22$ であるが、多くの児童が3.14を用いた式を解答

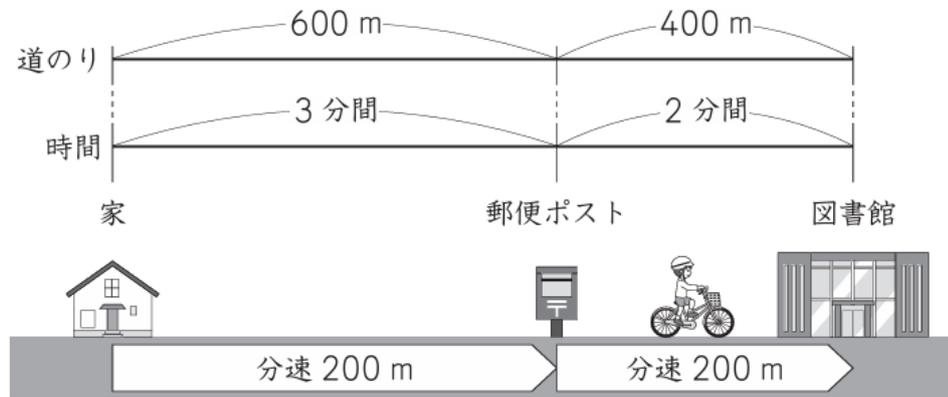


この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

【変化と関係】

●速さの意味についての理解に課題が見られた。

(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは600mで、3分間かかり、速さは分速200mでした。

郵便ポストから図書館までは、道のりは400mで、2分間かかり、速さは分速200mでした。

家から図書館までの自転車の速さは、分速何mですか。

答えを書きましょう。

※郵便ポストまでが「分速200m」

図書館までが「分速200m」であるから、

家から図書館までも当然「分速200m」であるが、

多くの児童が「分速400m」と解答。

速さを求める公式は理解しているが、速さの意味の理解が不十分である。

【データの活用】

- 示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断することに課題が見られた。

(4) こうたさんは、3月19日の卒業式の日までに、桜が開花してほしいと思っています。

桜がいつ開花するか知りたいと思い、桜の開花予想日について調べたところ、下のような桜の開花予想日の求め方を見つけました。

桜の開花予想日の求め方

- ① 2月1日から、毎日の最高気温の数値をたしていく。
- ② 毎日の最高気温の数値をたした答えが、初めて600以上になったその日を桜の開花予想日とする。



こうた

今日は3月16日です。桜はまだ開花していません。

桜の開花予想日の求め方の①のように計算すると、3月15日までの最高気温の数値をたした答えは549でした。

3月16日からの最高気温の予報は、下の表のとおりです。

3月16日から3月19日までの最高気温の予報

日にち	3月16日	3月17日	3月18日	3月19日
最高気温(度)	21	20	15	14

こうたさんは、3月16日以降は予報どおりの最高気温になるとして、桜の開花予想日の求め方を使って、桜の開花予想日を求めました。

桜の開花予想日について、次のようにまとめることができます。

最高気温の数値をたしていった答えが、初めて600以上になる式は、だから、桜の開花予想日は3月日です。

上の㊸に入る式を、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。また、上の㊸に入る数を書きましょう。

1 $549 + 21$

2 $549 + 21 + 20$

3 $549 + 21 + 20 + 15$

4 $549 + 21 + 20 + 15 + 14$

<指導の改善策>

【国語】

- ☆国語の時間だけでなく、生活のさまざまな場面や総合的な学習の時間の学習などを通して、情報を収集し、複数の情報から取捨選択をしたり、考えをまとめたりする活動を取り入れていく。
- ☆資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるように指導する。
- ☆漢字の書き取りは、ドリルなどでその漢字だけを繰り返し練習するだけでなく、文章の中で書かせたり、日常生活の中で意識的に漢字を使わせたりするようにしていく。

【算数】

- ☆文章題から立式する時、「あわせて、ふえると」などの言葉があれば、「たし算」、「のこりは、すくなくなると」などの言葉があれば、「ひき算」のように決めつけた指導にならないようにする。
- ☆「速さ」の求め方など、公式をしっかりと指導することは大切であるが、問題場面に合わせて、課題解決の方法を判断したり、説明させたりするような学習に取り組ませていく。
- ☆ICT の活用とともに、実物を操作するなどの数学的活動も大切に指導していく。
- ☆算数の時間だけでなく、生活のさまざまな場面や理科・社会などさまざまな教科の学習を通して、データを活用する力を身に付けさせるようにする。また、グラフのどの部分からそのように読み取ったのかを明らかにして、他者にわかるように伝えることができるように指導していく。

<質問紙調査の結果にみられる特徴と現状分析>

- 「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は全国の割合とほぼ同じ。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に肯定的な解答をした児童の割合が高い。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国の割合より高い。学習や生活の中で対話場면을多く設定し、互いを認め合う指導が充実していると考えられる。
- 放課後の過ごし方で、学習塾等で勉強している児童の割合が全国の割合より高い。
- タブレットなどの ICT 機器を活用すると、「わからない時にすぐ調べられる」「画像等を活用するとわかりやすい」と肯定的な回答をしている児童の割合が全国の割合より高い。一方、「友だちと考えを共有している」「協力しながら学習を進めている」と肯定的な回答をしている児童の割合はやや低い。
- 朝食を毎日食べていると回答した児童の割合が全国の割合と比べ、低い。
- 将来の夢や目標をもっている児童の割合が低い。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に肯定的な回答をした児童の割合がやや低い。
- 「友達関係に満足していますか」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国の割合と比べ、やや低い。

今年度の三小の6年生の児童の特徴として、自己肯定感、自己有用感は比較的高い児童が多い。しかし、友達関係の満足度や学習意欲はやや低い。

タブレットなどの ICT 機器が積極的に活用されているが、個人の調べ学習などの活用が中心で、友達と考えを共有したりするための活用がやや少ない。今後の活用の仕方の課題である。

今後も児童が生き生きと活躍できるような場を設定し、一人一人のよさを認め、意図的に伝えていくことが必要である。授業改善・学級経営の充実が求められる。